

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1	めざす学校像
	新しい時代に対応できるよう、思考力・判断力を身につけ、心豊かな人間性を育む学校をめざす。 1 建学の精神「報恩感謝」を大切にし、教育理念「人をつくる」に基づく教育を実践することにより、人間的な成長を実現し人格の形成をめざす。 2 すべての教育活動において、きめ細かい指導を行い個性や能力を伸ばし、自立にむけて必要とされる基盤や他者を思いやる心を育成する。 3 学校行事や部活動への積極的参加を促し情操面を豊かにし、試行錯誤の中から問題の発見・解決できる力を育成する。
2	中期的目標
	【1】 建学の精神・教育理念・教育方針に基づいて教育の実践を行い、私学としての独自性を発揮する。 (1) 私学の独自性 ア) 建学の精神「報恩感謝」・教育理念「人をつくる」を教職員がよく理解し、それに基づいて教育を行う。 イ) 入学式・卒業式・全体集会などの取り組みを通じて、建学の精神や教育理念について生徒の理解を深める。 ウ) 教育方針「個性の尊重」「実行から学べ」「明朗と自主」「礼儀と品性」に基づき、学校行事も含めあらゆる教育活動を通して、人格形成を図る。 ※ 教員の評価アンケートにおける「建学の精神の理解」の目標値は4.3以上とする。 (2) 生徒のニーズに対応したクラス編成 ア) 生徒の多様なニーズに対応し、3年コース(発展文理クラス・発展探究クラス)として教育活動を実践する。(令和3年度より改正) また、授業評価によりPDCAサイクルを確立させ教育活動を行う。 イ) 発展文理・発展探究クラス共に3年後の進路実現はもちろんのこと、探究活動を通して主体的な姿勢を育み自ら夢や目標を達成する意欲を高める。 ・ 発展文理クラスは応用的な内容まで掘り下げた授業を展開する一方で、学習のみならず何事にも深く追求する姿勢を育む。 ・ 発展探究クラスは週に1単位「総合的な探究学習(G-pro)」の時間を設け、主体的に課題解決に取り組む活動を通して、目標や夢を持ちその実現に向けて学習意欲や行動力を高める姿勢を育む。 ※ 生徒評価アンケートにおける「満足度」の目標値は4.2以上。(令和5年度 4.1) 向上できるように努力する。 (3) 進路指導 ア) 生徒が、自ら夢に向かう進路実現ができるように また、主体的により良い進路選択ができるよう、進路情報を提供するため、3年時2回の進路ガイダンスを行う。 イ) 自分の進路について主体的にまた積極的に考え、そのための進路を選択できる力を育む。 ウ) 個々の生徒に応じた目標を実現させるよう、生徒・保護者との面談を大切にしながら進路相談や進路支援を行う。個々の生徒に応じた希望・目標を実現させるよう、進路の探究、相談や支援を行う。 ※ 生徒評価アンケートにおける「進路面接等の満足度」の目標値は4.2以上。 【2】 学習面において時代の変化に対応した、「主体的な学び(探究)」を実践し、きめ細かい指導を通して生徒自らの夢や進路を実現するため確かな学力を育成するとともに、人権を尊重する学校づくりを行う。 (1) 教科指導 ア) 各教科はシラバスに沿って指導するが、グループ学習を取り入れ「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、授業改善に取り組む。 イ) 授業に創意工夫を行い、ICT機器(タブレット)を積極的に利用し、効果的に分かりやすい授業を行う。 ウ) 基礎学力の向上をめざすため、放課後学習・休暇中の講習や活発な自習室活動を実施する。 エ) 探究活動(発展探究クラスの「探究」授業含)を通して、生徒自らが課題に向けて考え、協働する力を養い、夢の実現に向け、学習意欲や課題解決能力を高める。 ※ 生徒・保護者の評価アンケートにおける「学力向上の意欲」の目標値は4.2以上。(令和5年度 生徒4.2 保護者3.9)と保護者の満足度には努力が必要である。引き続き目標値を超えるよう努力する。 (2) 人権教育 ア) 生徒一人ひとりが互いの個性を尊重し合う集団づくりを行う。その中で「心のバリアフリー」推進の動向をふまえ、障がいの有無にかかわらず、多様性を尊重する障がい者理解を推進し、人権感覚を持ち相手の身になって行動できるよう、日々の学校生活すべての活動を通して指導する。 イ) いじめ等を未然に防ぐため各学年、担任による日直面談を行い、年に2回「仲間づくりアンケート」を実施するなど生徒との接点を密にする努力を行う。 ウ) 学年毎にテーマを決め、人権教育を行う。 エ) 12月の人権週間には人権講演を実施する。 ※ 生徒・保護者の評価アンケートにおける「学校のいじめの対応満足度」の目標値は4.0以上。(令和5年度 生徒4.0 保護者3.8)と保護者の評価は目標値を下回った。令和6年度には目標値を達成する。 【3】 基本的な生活習慣の確立を行うとともに、安全で安心な学校づくりと生徒への支援を行う。また、学校行事や部活動を通じて主体性を持った豊かな人格形成を行う。 (1) 生活指導 ア) 個別の問題行動の対応にとどまることなく、基本的な生活習慣と規律ある態度を養うように指導を行い、集団生活における社会性を身につけさせる。 イ) 生徒にとって過ごしやすい生活環境であるために規則の改訂にも継続的に取り組む。 ウ) 重点を置いた指導として、生徒指導部が中心となり、乗車マナーの啓発や挨拶運動を実施する。日常生活での基本的なマナー及び公共施設や交通機関でのマナーの向上に努める。 ※ 生徒・保護者の評価アンケートにおける「教員の規則を守らせる指導」の目標値は4.2以上。(令和5年度 生徒4.2 保護者4.0)であり、引き続き努力する。 (2) 危機管理と情報公開 生徒の安全・安心を優先して危機管理に当たり、私学の有する公の性質と学校教育に果たす役割を考えて情報を公開する。 ア) 教職員は生徒の安全が何よりも大切であるという認識をもち、危機管理マニュアルを作成し安全・安心な学校をめざす。また、災害に備え備蓄品を整える。 イ) 情報モラル講演会などにより、スマートフォン、タブレットなどの情報機器の正しい使用法を習得させる。 ウ) 学校ホームページ等で可能な範囲の教育活動や情報の公開を行う。 ※ 教員自己評価アンケートにおける「学校安全対策」の目標値は4.2以上。(令和5年度 4.3)であり、評価は高いが、保護者の評価の向上に努力する。 ※ 保護者評価アンケートにおける「学校の情報公開」の目標値は4.2以上。(令和5年度 保護者4.1)と昨年より向上した。保護者の一層の評価向上に努力する。 (3) 学校行事・部活動や探究活動 ア) 社会性や協調性の育成のため、クラブ活動を奨励する。 イ) 情操面を豊かに育てるため、宿泊研修、校外学習、耐寒オリエンテーリングなど多彩な行事を充実させる。文化祭、体育会では生徒会を中心に、自主的に活動する姿勢を育てる機会にする。 ウ) 全クラスで取り組む探究活動、発展探究クラスでの「探究(G-pro)」授業を充実させる。また、文化祭・体育会では、生徒会を中心に自主的に活動できる機会にする。 ※ クラブ活動や行事の目標値は4.1以上。クラブ活動(令和5年度 生徒4.2 保護者3.9)、行事(令和5年度 生徒4.3 保護者4.3)と高評価ながらもクラブ活動へのニーズには検証が必要である。次年度に向け、検討をすすめる。 (4) 課題を抱えている生徒への支援 ア) 生徒が抱えている問題に対して、支援コーディネーターを中心に生徒相談係が一人ひとりを大切にしたきめ細かい相談・指導を行う。 イ) 保護者、ICP(臨床心理研究所)と連携し、生徒の問題解決に支援を行う。 ※ 生徒評価アンケートでの「個人面談等の満足度」の目標値は4.0以上。(令和5年度3.9)昨年同様努力が必要。令和6年度には目標値に達したい。 【4】 保護者・同窓会・後援会との連携と社会貢献 ア) 保護者と協力しPTA活動を活発にするとともに、保護者・同窓会・後援会とも連携し、文化祭・体育会などの生徒会活動を支援する。 イ) 生徒会活動を通してボランティア活動等で地域に協力する。 ※ 保護者評価アンケートにおける「PTA活動の満足度」の目標値は4.0以上。(令和5年度 3.8)と0.1向上した。令和6年度は目標値を達成したい。 ※ 生徒評価アンケートにおける「生徒会活動の満足度」の目標値は4.0以上。(令和5年度 3.7)と低迷しており、令和6年度強化に努力する。

自己評価アンケートの結果と分析[(令和6年度)2024年11月実施]	学校協議会からの意見
評価項目:教育活動全般及び学校に対する全体的評価を行う 評価方法:各項目について、5段階評価で行う 5:大変そう思う 4:どちらかといえば思う 3:普通 2:あまり思わない 1:全く思わない	
○全体評価 ・「入学して良かったか」の設問に対し、生徒 4.4・保護者 4.1と概ね高評価ではあるが、引き続き分析をしっかりと行い、これからも良い評価を目指す。	○ 進路指導 進路説明会を例年より早く(10 月上旬)実施予定となっているが、そのころには方向性が決まっているので、2年生の段階での実施を考えてもらいたい。(各高校の要項は 3 年夏明け完成)進路説明会では、資料に加えて卒業生の声なども情報としたい。クラスを問わず(文理は動き出しが早い)、説明会への参加や入試関連情報の提供とアドバイスをしてもらいたい。
○学習指導等 ・ 文部科学省提唱の「生きる力」を育む教育に向け取り入れた主体的・対話的で深い学びであるアクティブラーニングや ICT を利用した授業により、生徒の授業に対する取り組みの評価は、教員 4.5、生徒 4.2 となっている。教員は学習指導要領の内容を熟知しながら、生徒が意欲的に学習できるよう、今後とも研鑽を続けたい。	○ 学校情報 HP のアップデートがよくあり、写真や記事を通して情報が得られるものとなっている。また、様々なコンテンツがHPにあるので、情報の開示がしっかり行われているものと思っている。
○生徒指導等 ・「基本的生活習慣」の再確認と育成に努めた。教員の自己評価は 4.1とまずまずの評価となっているが、より一層、子供たちの基本的な生活や活動を援助できるよう努力したい。 ・ 社会の変化により、価値観の多様化が進んでいる。それに伴い、人権意識がより高まり、個々が生きやすい社会が目指される。そんな中、「いじめの対応」についてそれぞれの事象が背景・個々の性格等、一つ一つのケースが異なるため、教員の対応にも多面的な見方が必要とされる。教員自身の自己評価は 4.1と昨年より 0.2 ポイント下降した。教職員はチームとなり対応に一層の努力をし、一人ひとりの問題に対して真摯に向き合う姿勢をより大切にしたい。生徒の評価は4.0 だが、保護者から見た評価が 3.8 と目標を下回っているのは、日々の日直面談や教育活動において子供たちからの声を聴き取る対応に 満足できていないからと思われる。今後も引き続き、教職員の研鑽を重ねたい。 ・「クラブ活動と多彩な行事」は教育理念のテーマ「実践躬行」のもと、社会性や協調性を養うことに役立っている。人間力の育成に重要な行事やクラブ活動の項目は、教員の評価が4.2 と高評価である。	○ 学校施設 食堂のリニューアルで雰囲気明るくなったが、中学生を満たす分量と味付けにしてもらいたい。食堂利用は楽しみにしているが、学校のアピールとするには少し物足りない気がする。値段が上がるのは仕方がない。また、保護者にとっては食券購入後の並び方がよく分からない。
○学校運営 ・ 学校運営・学校経営について、昨年に比べ、教員による自己評価は3.9で0.1ポイント下降した。学校の置かれる状況に理解は広がりつつあるが、教員間において、私学人として少子化に伴う私学経営の危機感を共有し、学校経営計画に沿って教育に専念するよう今後も一層の努力を続けたい。 ・ 学習に関する評価では、教員の自己評価はほぼ4.0 以上と高い。しかしながら、「学習の遅れている生徒への支援」については 3.7 と昨年度同様低い数値となっている。少子化やアフターコロナ・多様化に伴い学習に対する意欲の低い生徒の数も増加傾向にある。教員が一人ひとりの生徒の実情に合わせた生徒への学習支援に努力できるよう、環境改善や校務のスリム化に努めたい。生徒のあり方に合わせ、より良い指導ができるようにする。 ・ 教員研修・資質向上に関して、校内研修については探究教育や人権教育など計画的に実施しているが、自己研鑽や研修、またオンライン研修などへの参加は依然として少ない状況にある。また、研鑽内容の共有などの機会が持てず、教員の評価も少し向上しつつも 3.6 と低い。中学校は校務が多岐にわたるため、校務の整理を引き続き課題とし、教員相互の授業見学など各教員の資質向上を目指し、積極的に自己研鑽を進めていきたい。	○ 学校行事 耐寒OL等の行事で生徒に提供する食べ物にアレルギーのある場合は、配慮(代替できる時)したい。PTAとして、基本同一のものを準備するので、受け取りない生徒さんには申し訳なく思う。可能な限り(アレルギーを考慮して)対応したい。
	○ コロナ禍においては、様々な行動が許容されていた。引き続き、授業中においても、生徒の判断で飲料水をとれるようにしてもらいたい。人前での表現が苦手な生徒は声を出しにくい。
	○ 危機管理 学校への立ち入りの際に、保護者証明書等の提示や、声掛けを通して、安全管理に努めてもらいたい。(小学校事件報道参照)
	○ 生徒・保護者による学校評価アンケート結果に対する外部評価 生徒の満足度にくらべて、保護者の数値が低いのは、教育活動への期待と心配が影響しているものと考えられる。要因としては、生徒から保護者への情報提供が少ない現状に加えて、進路指導の歩みが保護者や各家庭のリズムと合っていないためと考えられる。
	○ 教員による自己評価集計結果報告に対する外部評価 本校教育活動に関する自己評価は4.0以上を維持できるように努めたい。また、学習の遅れを感じている生徒への支援や、教員自身における研鑽の機会とその共有については、低い数値となっており、組織として機会の確保と学び合う雰囲気作りに努めたい。
【分析】 今年度の学校評価については、通常の学校教育活動ができ、すべての行事を実施することができた。コロナ禍を機に、行事の見直しも引き続き止めることなく改革し、生徒が主体性を持ち、満足できる教育活動に変革を目指せている。加えて ICT 教育など変化への対応も加速でき、学校全体に活気が戻りつつある。反面、アフターコロナに苦しみ、授業に参加しづらい生徒数も増加し、今後の課題ではある。 生徒・保護者の学校評価もいくつかの課題は残すが、概ね 4.0 に近い評価を得ることになり、日常への感謝を生徒とともに感じるとともに、次年度の一層の向上に努めたい。 ICT を活用した教育や生徒主体型の行事改革など、PDCA を繰り返し、今後も、完成に向けて努力し、より満足いただけるよう教育の質を高めるため、再考の必要な項目や評価の低い項目を注視し、改善の対象にしたい。	
学校目標 目指す学校像として「変化が加速し、多様な課題解決に対応できるよう、思考力・判断力・表現力を身に着け、心豊かな人間性が育む学校をめざす」という掲題のもと教育活動を行っていけるよう、伝統を重んじながらも、改革、改善や進歩が必要な事項を改め、向上への挑戦を続けたい。来年度も周囲を見て行動できる心のやさしい、思いやりのある美しい心を持った生徒を育てたい。そういう心豊かな生徒を育てられるよう、全職員も努力し、取り組んでいきたい。	○ 結果 探究活動を中心とした、多彩な行事を含めた教育活動における生徒への働きかけとそのサポート体制については、一定の評価を得られた。しかし、3年間の本校が果たす役割の1つとして、進路指導があり、保護者と伴走しながら、生徒を支援する計画の再構築を目指したい。変化が加速し、多様な課題解決に対応できる生徒を育てられるよう、学びに向かう基本的な姿勢と学ぶ喜びを身につける機会をより多く提供できるよう努力したい。

3 本年度の取組内容及び自己評価 令和 6 年度				
中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 建学の精神・教育理念・教育方針に基づいて教育の実践を行い、私学としての独自性を発揮する	(1)私学の独自性	ア. 職員研修などを通じて、建学の精神・教育理念などを理解・実践する。 イ. 入学式・卒業式・全体集会などを通じて、建学の精神・教育理念について生徒に話をし、理解を深める。 ウ. 教育方針「個性の尊重」「実行から学べ」「明朗と自主」「礼儀と品性」に沿って、学校行事も含めあらゆる教育活動を通して、人格形成を図る。	ア. 私学であるため教員による建学の精神及び教育理念の理解及び実践目標を 4.3 以上とする。(令和5年度教員 4.4) イ. 諸式を通じて校長講話の中で建学の精神や教育理念等をわかりやすく説明する。(令和5年度生徒 3.9 保護者 4.1) ウ. 生徒指導部の月間目標に教育方針の内容を取り入れ、生徒に啓発を行います。また、宿泊行事、社会見学など多彩な行事を通じて教育方針に基づいた活動を実践する。(令和 5 年度生徒 4.2) イ、ウの目標は 4.2 とする。	ア. 教員の建学の精神・教育理念の理解が定着してきている。(○教員 4.4) イ. 教員がよく理解し、それに基づいて教育を行うことができた。生徒の評価についても向上した。話題に触れる機会を増やし、より丁寧な説明をしたい。 (○保護者 4.0△生徒 4.2) ウ. 生徒指導部は毎月月間目標を設定し、教育方針の啓発に努めることができた。(○教員 4.3) (1)について概ね高評価で、次年度もこれを維持する。
	(2)生徒のニーズに対応した教育活動	ア. 授業評価を検証し、改善点を見出し、生徒にとってより良い指導を行う。 イ. 発展探究クラスは、「総合的な探究学習(G-pro)」を取り入れ、探究活動を通じて協働し自ら発信する力を養い、将来の進路を自ら実現する。 ウ. 発展文理クラスは、日々の確認テストや学習目標の設定を通じて、主体的に応用的な内容まで学ばせ、よりハイレベルな進路実現へのニーズに対応する。	ア.授業評価を検証し、改善し実行する。目標値を 4.2 以上とする。 イ.ウ.発展探究・発展文理の2つのクラス編成による、新しい教育活動への移行が完了した。より充実したカリキュラムになるよう、検証し、発展させる。 (令和 5 年度 生徒 4.1 保護者 4.0) それぞれの学年の満足度目標値を 4.2 以上とする。	ア. コースの特徴を理解し、授業評価を検証し、改善し実行できているかについては努力が必要である。(△教員 3.8) 生徒、保護者ともイ. ウの全てのコースについての取り組みについて理解し満足している。 (○生徒 4.2・保護者 4.0) (2)は、新クラス制度の移行が終了し、探究活動や新たな行事、教育活動のさらなる改良の年となった。歩みを止めず、PDCAのもと挑戦を続けたい。 コロナ後、学校生活になじめず悩みを抱える生徒が増加する中、学校生活で、個々の生徒に合った教育サポートの向上・充実が急務である。今後も課題意識を持ち、取り組みたい。
	(3)進路指導	ア. 生徒が、自分自ら夢に向かう進路実現ができるように また、より良い進路選択ができるよう、進路情報を提供するため、3年時2回の進路ガイダンスを行う。 イ. 自分の将来について主体的に考え、そのための進路を選択できる力を育む。 ウ. 個々の生徒に応じた目標を実現させるよう、3年の1学期より希望調査をとり、進路相談や進路支援を行う。	ア. 生徒の将来を見据え、探究活動を通じて自己発見や進路情報の提供や進路ガイダンス(令和 5 年度生徒 4.1 保護者 3.8)を行う。目標は 4.2 以上とする。 イ. 探究活動を通じて、自ら考え、自己肯定感を高めつつ、進路選択できる力を養成する。 ウ. 個々の生徒に応じた目標を実現させるよう、進路相談や進路支援を行っている。 (令和 5 年度は生徒 4.1・保護者 3.8) 4.2 以上を目標とする。	ア. 情報速度が増す中、新しい形の進路ガイダンスに挑戦しているが、低学年時からの情報提供に一層の努力が求められる。 今後も生徒・保護者が必要とする情報を早期に提供できるよう努力を続たい。(△保護者3.7 ○生徒4.2 教員4.5) イ. 探究活動を通じて生徒の主体性を引き出す努力をしているが、より具体的に進路選択につなげたい。 (△) ウ. 進路相談は昨年引き続き高評価であるが、保護者の評価に応えられるよう、より一層の努力、向上を目指す。 (◎生徒 4.2 △保護者 3.7 ◎教員 4.4) (3)の進路指導は中学校の要であり、これからもデータなどを整理・分析し、進路面談に役立てたい。 保護者のニーズをとらえた進路指導を目指す。

2 学習面において時代の変化に対応した、きめ細かい指導を行い確かな学力を育成するとともに、人権を尊重する学校づくりを行う	(1)教科指導	ア. 各教科はシラバスに沿って指導するが、グループ学習を取り入れ「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、授業改善に取り組む。 イ. ICT 機器を積極的に利用し、分かりやすい授業を目指し創意工夫をする。 ウ. 学力の向上と定着をめざすため、早朝学習・放課後学習(自習室活動)・休暇中の講習を実施する。 エ. 自らの課題に向けて考え、協働し、自己肯定感や学習意欲を高めるために探究活動を実施する。	ア. 教員によるシラバスに沿った指導、グループ学習や AL を取り入れ、より一層の充実を図る。目標を 4.2 以上とする。(令和 5 年度 教員 4.1) イ. 教員による授業への創意工夫を行い、ICT機器の有効活用を通じ、分かりやすい授業の展開の目標値を 4.3 以上とする。(令和 5 年度教員 4.3) 生徒・保護者による「授業は分かりやすいか」には(令和 5 年度 生徒 4.2 保護者 3.9)との開きがある。原因の分析を行いその手立てを実践するためにも両者の目標値を 4.2 以上に設定する。 ウ. 教員による生徒の学力向上・学習の遅れている生徒への支援を個々の生徒の実態に合わせて行う。 令和 5 年度教員 3.7 と評価が下降した。教員による生徒の学力向上への取り組みは、令和 5 年度 生徒 4.2 保護者 3.9 教員 4.2 で、保護者の評価向上に努力する。生徒・保護者による生徒の学力向上への意欲は 4.2 を目標とする。 エ.探究活動を通じて、生徒が「主体的・対話的で深い学び」を実現し、様々なことに興味・関心が持て、意欲が得られるようになることを目標とする。(令和 5 年度 教員 4.3)	ア. 主体的・対話的で深い学びによる新しい学習形態も定着してきている。シラバスの再調整を含め、より教科での研究や情報共有がより必要と考える。(○教員 4.2) イ. 分かりやすい授業の展開については、昨年同様の評価となり、やはり保護者評価は生徒と比べ低い評価となり、目標値に達していない。(△保護者 3.9 ○生徒 4.2) 教員による授業研究を推し進め、教科内での情報を共有し、スキル向上に努める。(教員 4.2△) また、ICT リテラシーの向上も目指す。 ウ. 生徒の学力支援に対する教員評価は 3.7 と昨年に続き評価が低くとどまった。(△) 生徒の教員努力に対する評価は、4.3(○)と評価を得ているが、保護者は 3.6(△)とかなり低い。教員の取り組みについては4.0(○)だが、保護者の評価改善に努める。教科指導について、生徒個々の弱点は多岐にわたり、満足には到達していない。アフターコロナの生徒に理解度の差が生まれる中、引き続き、個別対応のための改善に努め、学習意欲を伸ばすよう努める。 エ. 探究活動が生徒の成長につながるかについては教員の手ごたえがある。今後も生徒の成長を図っていきたい。(○ 教員 4.3)
	(2)人権教育	ア.「心のバリアフリー」の観点から、障害者理解を深めつつ、人権感覚を持ち相手の身になって行動できるよう、日々の学校生活すべての活動を通して人権教育を行う。 イ. いじめ等の予防、早期発見のため、各学年、日直面談を行い、学期ごとに「仲間づくりアンケート」を実施し、人権意識を育てる。 ウ. 障がい者と外国人差別について(1年)、身分差別と平和学習(2年)、総まとめと進路について(3年)と学年毎にテーマを決め人権教育を行う。 エ. 12月の人権週間には中学校行事として、人権講演を実施する。	ア. 教員は周囲の人を尊重し、よりよい人間関係を築いていく態度を養う教育を実践しているが、(令和5年度教員4.5)であり4.3以上を目標とする。 イ. 生徒・保護者による教員の「いじめ」の対応は適切かについては 令和5年度 生徒4.0 保護者3.8 とまだ保護者の評価は低い。特に日直面談を充実させる。目標は4.0以上とする。 ウ. 教員は人権に係わる様々な問題に関心を持ち、人権意識を高める教育を実践する。(令和5年度教員4.2) 4.2以上を目標とします。 エ. 全学年、および各学年の人権講演会や道徳的な行事については 令和5年度生徒4.2 保護者3.9とやや満足度が低下傾向となった。より丁寧な人権教育を継続し、目標を4.2以上とする。	ア. 教員は学校生活すべての活動を通して人権教育を行っていると考えており、その点で評価できる。(◎教員 4.3) 実際に人権意識を高めているかについても目標をクリアできた。(○教員 4.4) イ. 教員のいじめ対応について、面談やアンケートにより未然に防ぐようにしているが、早期発見や初期対応への工夫が努力課題でもある。(○生徒 4.0 保護者 3.8) 一層生徒の声を聴きやすくする環境づくりに努める。 ウ. 教員の人権意識を高める教育については、引き続き努力を続け、時代のニーズに合った活動を模索する。(○教員 4.3) エ.人権講演や道徳的な行事に関して、向上が見られるが、保護者には満足度はまだ低い。活動内容の一層の開示に努める。(○生徒 4.4 △保護者 3.9 ◎教員 4.4) 人権教育に関してはおおむね高評価であり、今後も綿密な計画を立て、実施する。反面、いじめに関しては、努力とは逆に、保護者の満足に至らず、引き続き丁寧な対応、研修を重ねる努力をしたい。

3 基本的な生活習慣の確立を行うとともに、安全で安心な学校づくりと生徒への支援を行う。また、学校行事を通じて豊かな人格形成を行う。	(1)生活指導	ア. 個別の問題行動の対応にとどまらず、基本的な生活習慣と規律ある態度を養う指導を行い、集団生活における社会性を身につけさせる。 また、生徒にとって過ごしやすい生活環境であるために規則の改訂にも積極的に取り組みます。	ア. 教員による、規則を守らせる指導・挨拶・礼儀を重んじるは（令和５年度 4.0）で向上が必要である。目標は 4.2 以上とする。 また、生徒・保護者による教員の規則を守らせる指導（令和５年度 生徒 4.2 保護者 4.0）と評価は安定している。引き続き 4.2 以上を目標とする。	ア. 規則を守らせる指導について教員の自己評価は努力課題であるが、生徒の評価は目標に達している。（◎生徒 4.3） 多様な価値観に対応する変革の時期であり、教員の指導にも工夫を求められている。教員の共通認識を深め、生徒に寄り添う努力が必要である。（△教員 3.8）
	(2)危機管理と情報公開	イ. 重点を置いた指導として、生徒指導部が中心となり、挨拶運動を実施する。	イ. （令和５年度 生徒 3.9 保護者 3.8 教員 4.1）である。生徒会を中心に積極的に挨拶運動を行ない、学校月間目標により、さらに啓発を行う。目標値は 4.0 以上とする。	イ. 生徒指導部と生徒会を中心に挨拶運動などの活動を続けている。コロナ後の生活習慣の復活にまだ少し課題が残る。いっそうの啓発を続ける。（△生徒 4.0・保護者 3.7）
	(3)学校行事や部活動	ア. 教職員は生徒の安全が何よりも大切であるという認識を持ち、危機管理マニュアルを作成し、安全・安心な学校をめざす。また、災害に備えて備蓄品を整える。 イ. 情報モラル講演会などにより、スマートフォン・タブレットなどの情報機器の正しい使用法を習得させる。 特に SNS、写真撮影等個人情報の公開の危険性、人権面での指導に力点を置きます。 ウ. 学校ホームページの公開掲示板等で可能な範囲の教育活動や情報の公開を行う。	ア. 安心・安全な学校を目指すには、危機管理マニュアルの整備（令和５年度教員 4.2）及び、緊急時の警察、消防との連携・訓練等の学校安全対策は（令和５年度 4.3）はどちらも良い評価である。 4.2 以上の目標とする。 イ. 情報機器（スマートフォン・タブレット等）の正しい使い方では（令和5年度 生徒 4.1 保護者 3.7 教員 4.3）と保護者が生徒に対する信頼がまだ低い。 4.0以上を目標とする。 ウ. 情報公開については、努力により保護者の満足度が向上しつつある。（令和5年度 保護者 4.1 生徒 4.4）よりわかりやすい方法により 4.2 以上を目指す。	ア. 危機管理マニュアルの整備や学校安全対策は概ね高評価で、目標値に到達した。安全対策は重要であり、一層現実を想定した安全を意識したい。（○教員 4.3） イ. スマホ・タブレットなどの使用に関して、今年度も生徒と保護者の見解が大きく分かれている。 情報化が進む中、保護者が安心して生徒を信頼し、使用できるよう、保護者への情報モラル教育の共有の充実、生徒への正しい使い方への指導の徹底を図りたい。（△保護者 3.6 ○生徒 4.2） ウ. ホームページの充実、SNS による発信に努力し、発信方法の整理により、保護者の満足度も向上しつつある。 （生徒 4.5・○保護者 4.0）
	(4)課題を抱えている生徒への支援	ア. 社会性や協調性の育成のため、部活動を奨励します。 イ. 情操面を豊かに育てるため、宿泊研修、校外学習、耐寒オリエンテーリングなど多彩な行事を充実させます。 文化祭、体育会では生徒会を中心に、自主的に活動する姿勢を育てる機会にします。 ウ. 全クラスでさまざまな行事と探究活動を結び付けると共に、発展探究クラスでの「探究」授業を充実させます。 ア. 生徒が抱えている問題に対して、きめ細かい相談・指導を行う。 担当を中心に主任、クラブ顧問など多くの教員で情報を共有し、対応します。 イ. 問題解決の部署として ICP（臨床心理研究所）の存在の明確化をするとともに、生徒相談係を中心に、相談しやすい環境づくりに努める。	ア. 説明会やガイダンスなどで、部活動への参加を奨励する。 （令和５年度 生徒 4.2 保護者 3.9） 4.1 以上を目標とします。 イ. 多彩な行事の中で、協調性を持ちながら主体的に考え、行動できる生徒を育てる。（令和５年度 生徒 4.3 保護者 4.3） 通常の学校生活に戻り、評価が向上している。高評価を継続する。4.2 以上を目標とします。 ウ. 主体的に活動し、協働し、表現できる生徒を育てる。 ア. 担任は日直面談等きめ細かい相談・支援を行なう。 （令和５年度教員 4.2） 目標は 4.2 以上とする。 イ. 面談等の満足度は低迷している。（令和5年度 生徒 3.9 保護者 3.8）各教員に積極的に働きかけ、活性化を試みる。 4.0 以上を目標とする。	ア. クラブ活動については、保護者の理解において満足に達していない。 時代に沿った活動への理解を深めるとともに、充実した活動に努力が必要である。（△保護者 3.9 生徒 4.2） イ. 宿泊行事や体育会・文化祭は、毎年向上を目指し挑戦し、高評価を得ている。常に新しい形を模索し、次年度も改革に臨みたい。 （○保護者 4.1◎生徒 4.4 ◎教員 4.6） ウ. 文化祭での探究発表や３年生の合唱など生徒が主体的に活動できています。（○） ア. 担任を中心として、生徒の変化を見逃さないように一層の努力が必要である。充実した効果のある日直面談を目指し、その見直しを検討するなど、改善に努めたい。 （△教員 4.0 △生徒 3.8 △保護者 3.8） イ. 昨年より面談の形の改善に努めているが、まだ評価は低い。面談のあり方を再考し、更なる努力が必要である。 （△保護者 3.8 △生徒 3.8 ○教員 4.1）
4 保護者・同窓会・後援会との連携 携と社会貢献 の連	保護者・同窓会・後援会との連携をすすめるとともに、地域の社会活動に協力する。	ア. 保護者と協力しPTA活動を活発にするとともに、保護者・同窓会・後援会との連携し、文化祭・体育会などの活動を支援する。 イ. 生徒会活動を通して復興支援やボランティア活動等で地域に協力する。	ア. 保護者から見るPTA活動は、通常の教育活動に戻ったが、（令和5年度 保護者 3.8）とまだ低い。 さらに工夫を加え、新たな活動企画に努力する。目標値は4.0とする。 イ. 生徒から見る生徒会活動は（令和５年度 生徒 3.7）である。活性化に向け、生徒全体に啓発し、支援努力する。 目標値を 4.0 以上とする。	ア. コロナ後 PTA 活動に対する評価は低迷していたが、PTA 役員の努力やアイデアにより活動への評価は向上傾向にある。さらに工夫を加え、努力したい。 （○保護者 4.0 ◎教員 4.3） イ. 生徒会活動は、生徒が主体的に参加する形に変えつつあるが、個々の生徒の活動としては評価はまだ低い。より前向きな活動に向け充実させたい。（△生徒 3.8）